

## 【5】 実践事例

### ———— 授業づくり ————

#### [1] 高等部の授業づくりについて

##### (1) 題材の選定と支援の工夫

取り組みの構想で述べたように、本年度は「生活を楽しむ」に視点をあてた授業づくりの実践を、各研究教科・領域に重点をおいて行ってきた。まず、年間指導計画を立てる際に、題材の選定が「生活を楽しむ」の視点に沿っているかどうか検討をした。そして、その時々有効だった支援や、生徒の様子や支援の仕方に対する評価を記録に残しながら話し合いを進めてきた。効果的だと考えられた題材の選定や支援の工夫を、次に挙げてみたい。

##### ① 題材の選定

- ・生徒が力いっぱい取り組める活動がある。
- ・生徒による主体的な取り組みができ、その結果、満足感や充実感を持たせることができる。
- ・いろいろな人との関わりの場面がある。
- ・一人ひとりに応じた活動が保障できる。
- ・基礎的な力を身につけさせられる。
- ・今を楽しむと同時に将来の楽しむ姿につながる。
- ・発達年齢を考慮しながらも、青年期にふさわしい内容である。
- ・大人になりつつある心や身体を見つめることができる。

##### ② 支援の工夫

###### ○教師の関わり方

- ・適切な発問、指示、声かけ、助言をする。
- ・本人からの動きをじっくり待つ。
- ・ヒントを与える。
- ・質問しやすい状況づくりをする。
- ・基本的な事項のアドバイスをする。
- ・選択の機会を用意する。
- ・生徒と一緒に活動をする。
- ・粘り強くやり直しをさせる。
- ・丁寧に繰り返し指導する。
- ・タイムを図り技能の向上を感じさせる。
- ・時間を決めて速さを意識させる。
- ・並べて数を意識させる。
- ・よく見える形で具体的に作業を示す。
- ・本人の技術を生かす。
- ・本人の好きな活動を取り入れる。
- ・前時の反省を確認する。
- ・具体的なめあてや目標を持たせる。
- ・全体の見通しを持たせる。
- ・丁寧さをほめて自信を持たせる。
- ・完成を楽しみにさせる。
- ・本人のプライドを傷つけない。
- ・プラスの評価に心がける。
- ・評価をその場で明確に簡潔にする。

○適切なグループ編成の工夫

○効果的な場の設定

○教材・教具の工夫

・完成品を見せて意欲づけする。

・説明書を示す。

・ワークシートを工夫する。

・使いやすい道具を準備する。

・絵や写真を利用する。

## (2) 各研究場面での授業づくり

われわれは、各研究場面での授業づくりを次のように考えている。

### ① 生活一般

生活一般では、生活に役立つ実践的な力をつけたいと考える。この力をつけることによって自己活動できる場が広がることは、生活を楽しむことにつながると思われる。また、自己認識を深めると同時に、将来の進路を見据えさせ、より主体的に生きていく姿勢を形成したい。そして、お互いに認め合う温かい雰囲気の中で、生徒の思いや考えが生かされるような授業に心がけたい。

なお、生徒が主体性を発揮し力いっぱい活動することをねらった実践、自分たちの手で構成劇をつくりあげていき成就感を味わうことをめざした実践、人に喜んでもらうことの満足感を味わわせることをねらった奉仕活動の実践については118頁より記している。

### ② 職業科

職業科では、いろいろな作業に自分なりに目的意識を持って取り組み、最後までやり抜く態度や技能を育てる。見通しを持ち、主体的に働く意欲を育てるために、目標設定や評価を丁寧にしていく。さらに、職業で培った力を校内職業実習や現場実習で発揮させ、社会参加への自覚と意欲を培っていききたい。

木工コースと陶芸コースの実践を、127頁よりあげている。

### ③ 選択学習

選択学習では、将来の余暇利用や特技につながるような授業づくりをしたい。そのために、指導の意図を持ちながら本人の希望も生かしたコース選択をする。そして、授業の中で活動に没頭しながら技能を身につけさせていきたい。さらに、家庭・地域社会と連携をとりながら、身につけた技能を実際の生活の場で生かす機会を作り生きた力として定着できるようにしむけていきたい。

お茶を楽しみながら主体性を育てることをねらった茶道コースの実践、作品作りの喜びを通して主体的に活動に取り組みさせた木工芸コースの実践について、133頁で述べる。

### ④ 特別活動（学部集会・ホームルーム活動）

生徒の自主性を最大限に尊重した学部集会・ホームルーム活動を運営する。教師は意図を持ちながらも、話し合い活動・準備・当日の運営を生徒が中心になって進めるようしむけると、生徒は自分たちの手でやり遂げた満足感を持ち、次の活動への意欲につなげる。

活動のなかに喜びを持ちながら主体的に取り組みさせた学部集会の実践、生徒たちが主体的に運営することを通して力いっぱい活動しきることをねらったホームルームの実践については、139頁より述べている。

（河田）